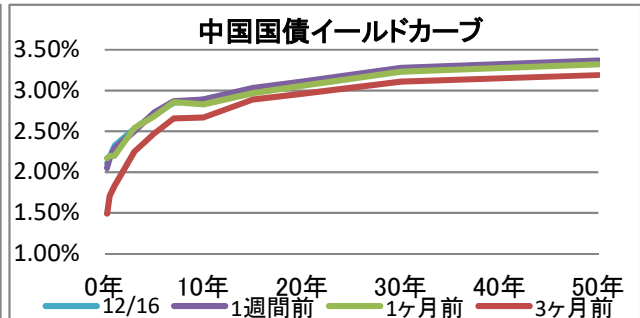
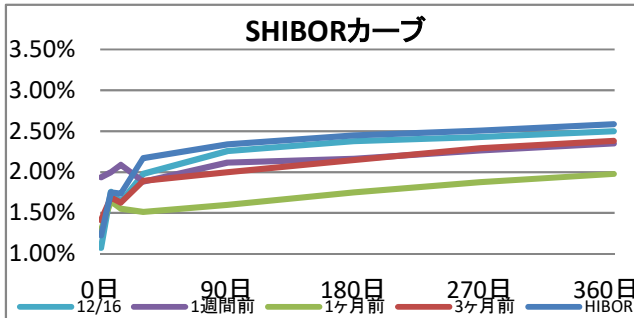


基準レート		2022/12/16	(前週末比)
人民元基準値	USD/CNY	6.9791	+0.0203
	JPY/CNY	5.0666	-0.0246
SHIBOR	3M	2.3390%	+0.0800%
国債利回り	10年	2.89%	+0.00%
上海総合指数		3,167.86	-39.09



(1) 概況

国際金融市場では、欧米政策金利の引上げ幅縮小が市場予想通りとなったが、FRB議長等のタカ派的な発言や経済指標の悪化を受け、利上げ長期化と景気への影響が懸念される中、株安が進行し、債券利回りは低下。

中国金融市場では、経済指標悪化とコロナ感染急拡大による景気への影響が懸念されて株価が下落に転じる一方、債券利回りは年末資金需給要因等から上昇。外為市場でも中国の景気悪化と米国の利上げ長期化が懸念されてドル高元安に。

中国では、来年の経済運営方針を決める「中央経済工作会議」が開催され、感染予防と経済発展のバランスを取りつつ消費の回復と拡大を優先する等の方針が示され、劉鶴副総理が国際会議で、来年の経済情勢好転に自信を示し、不動産業への新たな支援措置を示唆。國務院は内需拡大戦略計画大綱（2022～2035）を、発展改革委員会は内需拡大戦略の実施方案を策定。易中国人民銀行行長は「現代の中央銀行システムの構築」の、郭銀保監会主席は「現代金融監督管理の強化・改善」の基本的な考えや重点措置等を示し、中国人民銀行等は金融インフラの設立・運営等の監督管理枠組みを規定した「金融インフラ監督管理法」のパブコメを、銀保監会はコロナ対応措置の緩和に伴う金融機関のサービス確保に向けた関連項目を公表。米中半導体摩擦は、中国政府による米国のWTO提訴と米国政府の中国企業の禁輸リストへの追加により激化。一方、米証券当局が中国本土・香港に本社を置く監査法人への検査に対しアクセス確保可能と判断し、中国証監会は歓迎の意と今後の協力関係に期待を表明。この間、11月の海外投資家の中国債券保有高が10か月連続で減少。

(2) 金融市場調節

中国人民銀行は、MLF期日5000億元、リバースオペ期日100億元に対して、MLF（1年物、2.75%）を6500億元、新規リバースオペ490億元を実施し、ネットで1890億元を供給。

(3) 主な経済指標

- ・小売売上高（11月）は前年比-5.9%（10月、同-0.5%）と2か月連続の前年割れ。コロナ感染再拡大に伴う行動抑制等から飲食関係（同-8.4%）の不振が続いたほか、自動車販売（同-4.2%）も前年割れに転じ、全体でもマイナス幅拡大。
- ・鉱工業生産（11月）は前年比+2.2%（10月、同+5.0%）とプラス幅縮小。インフラ投資の進捗から鉄鋼等は堅調な伸びを維持したが、自動車やスマートフォンの生産台数が前年割れとなり、パソコンや半導体集積回路の大幅減産が継続。
- ・固定資産投資（1-11月）は年初来前年比+5.3%（10月、同+5.8%）に減速し、不動産投資（1-11月）は同-9.8%（10月、同-8.8%）にマイナス幅を拡大。
- ・都市失業率（11月）は5.7%と、10月（5.5%）対比で小幅上昇。コロナ感染再拡大に伴う生産・経営活動抑制が影響。

② 資金市場

(1) 人民元資金市場

	SHIBOR	無担保資金	レポ	NCD AAA
ON	1.2240%	1.2500%	1.8000%	
1W	1.7520%	1.8500%	1.6000%	
2W	1.7370%	1.8000%	4.0000%	1.1000%
1M	2.1710%	2.5500%	3.5000%	2.4500%
3M	2.3390%	4.0000%	2.9000%	2.5300%
6M	2.4500%	2.8500%	2.8000%	2.6300%
9M	2.5080%			2.7300%
12M	2.5870%			2.7300%

年末が意識されて資金需給がタイトな状況が続いたものの、週後半のMLFとリバースオペの増額により需給はやや改善している。ただし、年末越えとなるターム物の金利水準は依然高止まりの状況となっており、1ヶ月物の3%台前半を中心とする取引を除いて出合いは限定的。

NCDも、年末越えとなるターム物の金利水準上昇が続いており、1ヶ月が2.4%台後半、3ヶ月が2.5%台、6ヶ月は2.6%台、1年が2.7%台に上昇して取引されている。

(2) 米ドル資金（本土内）

	BID	OFFER
ON	4.30%	4.31%
1W	4.35%	4.40%
1M	4.55%	4.60%
3M	5.40%	5.50%
6M	5.60%	5.65%
12M	5.70%	5.75%

米CPIの伸び鈍化で金融引締め減速期待が高まったものの、FOMCにおいて金融引締めの長期化とターミナルレートの上昇が示唆されたことから、中国国内市場のターム物の金利水準は年末を控えていることもあり、高止まりの状況。ターム物は1ヶ月の4.5%台での取引を除き出合いは限定的。

③ 人民元債券市場

	国債	地方債AAA	金融債AAA	社債AAA	社債AA
3M	2.11%		2.59%	2.82%	3.26%
6M	2.19%		2.73%	2.88%	3.33%
1Y	2.32%	2.39%	2.79%	3.02%	3.53%
3Y	2.53%	2.70%	3.00%	3.46%	4.04%
5Y	2.71%	2.86%	3.25%	3.62%	4.27%
10Y	2.89%	3.06%	3.48%	3.76%	4.44%

債券市場では、資金需給がタイトになり短期を中心に債券が売られやすくなる年末要因に加え、ゼロコロナ政策緩和や中央経済工作会議での景気支援策による景気回復への期待から上値の重い展開となったものの、経済指標の悪化や中国人民銀行のMLF増額等により、国債を中心に下値では買戻しが入る展開。米国債利回りは、FOMCで利上げ幅は縮小されたものの金融引締め長期化が示唆され上昇していたものの、経済指標の悪化や過度な金融引き締めによる景気減速懸念の高まり等から10年米国債利回り（3.48%、-10bp）は低下に転じており、中国国債利回り（2.89%、±0bp）の上回り幅は+59BP（前週比-10bp）と縮小に転じている。

イールドカーブは、短期と信用債を中心とする利回りの上昇が続き、フラットニングとクレジットスプレッドの拡大が続いている。

④ 先物為替市場

	USD / CNY
1M	-167.0 / -166.0
3M	-501.0 / -498.0
6M	-1010.0 / -1005.0
9M	-1510.0 / -1500.0
12M	-1935.0 / -1925.0

対ドル基準レートは6.9791と前週比+203pipsのドル高元安、対円基準レートは5.0666と同-246pipsの円安元高と、米国の金融政策や中国の景気悪化懸念を材料に往って来いとなった市場を映じた設定となった。中国国内市場では、週半ばに米国のCPIの伸びが鈍化し、金融引締め減速期待の高まりからドル安となって6.93台まで売られたものの、中国でのコロナ感染再拡大や景気悪化懸念から下値は堅く、その後米金融引締め長期化懸念から買い戻され、6.98台に上昇後、6.97台前半で週末を迎えている。

先物は、FRBの利上げが市場予想通りだった米ドル金利に大きな変動がない一方で、人民元金利は年末を控えて上昇が続いたことから金利差が縮小しており、1年物では週初の-2000台半ばから週末にかけて-1900台前半までマイナス幅が縮小する展開となった。

⑤ 金利スワップ

	Quarterly 7d Repo A/365	Quarterly 3M SHIBOR A/365 A/360	Annually O-N SHIBOR A/365 A/360
3M	2.08%		1.60%
6M	2.13%	2.41%	1.71%
9M	2.19%	2.47%	1.78%
1Y	2.24%	2.53%	1.89%
3Y	2.59%	2.91%	2.05%
5Y	2.82%	3.21%	
7Y	2.97%	3.39%	
10Y	3.12%	3.57%	

スワップ金利は、債券利回りとともに上昇を続けているものの動きが鈍く、スワップスプレッドはやや縮小している。

◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。

◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入